

# 凡 例

## I. 構 成

- 1) 本書は、欧和の部、和欧の部、略語の部、付録からなる。
- 2) 欧和の部では欧語をアルファベット順に配し、和語とその読みを付した。
- 3) 和欧の部では和語を五十音順に並べ、対応する欧語を配した。
- 4) 略語の部では頻用される略語をアルファベット順に配し、省略しない欧語を示した。
- 5) 付録には頻用されるドイツ語、骨系統疾患国際分類、初版から第6版までの序文を掲げた。

## II. 欧 語

### 1. 採用の基準

【対象】日常使われている整形外科学用語を主とした。他領域の用語および一般医学用語は、整形外科領域でしばしば用いられるものに限った。

【言語】英語を主とし、そのほかに必要と思われるラテン語などの用語を採用した。ドイツ語は見出し語に含めず、巻末の付録に一覧を掲げた。

【品詞】名詞を原則とした。形容詞は単独では採用しなかった。

例：sciatica — 採用， sciatic — 不採用， sciatic scoliosis — 採用  
ただし名詞形のない特殊な形容詞は採用した。

例：intra-articular — 採用

【除外】薬品名、微生物名は原則として対象外とした。

【解剖学用語】原則的に英語で慣用されているものを採った。ただしラテン語のまま用いられている筋肉の名称は採らなかった。

【冠名語】人名を冠する疾患名、徴候、診察法、分類法、手術法などで、一般的と考えられるものを採用した。これらは、一部の例外はあるが、所有格の'sを用いない形で掲載した。

また、徴候は sign，診察法は test，分類法は classification，手術法は procedure と表現することを原則とした。Bennett fracture, Monteggia fracture は脱

白骨折であるが、fracture とした。

## 2. 表記法

【同義語】同義の欧語が2つ以上ある場合、もっとも代表的な語に案内することを原則とした。代表語を決めたい場合は、いずれの語も和語を付して掲載し、《 》で同義語を示すか、説明を加えた。

【複数形】不規則な複数形をとる語では、単数形の見出しに複数形を併記した。ただし foot/feet のように常識的な語では、これを省略した。

【ハイフン】ハイフンの有無については、国際分類などで定められたものがあればそれに従い、その他の用語では一般的と思われる用法を採った。

【英語の綴り】原則として米国式綴りとした。

## Ⅲ. 和 語

### 1. 採用の基準

【対象】慣用され定着しているものを採用した。また、整形外科学に関連する専門分野で決められている和語・表記法を、できるだけ尊重した。

【同義語】1つの欧語に対し、2つ以上の同義の和語がある場合は、それらをカンマで区切って列挙した。

【別義語】1つの欧語に対し、2つ以上の別義の和語がある場合は、1), 2) の記号をつけて区別した。

### 2. 表記法

【漢字の字体】原則として JIS 第1・2水準の漢字を採用した。

例：脛骨，痙攣，濾出

ただしこれらは JIS 第1・2水準にない慣用字体を使用して、「脛骨」，「痙攣」，「濾出」と書いても差し支えない。

JIS 第1・2水準に異体字がある場合には、どちらかに統一した。

例：頸椎（頸は採用せず），囊胞（囊は採用せず）

なお、一部の用語では JIS 第3水準の漢字を用いた。

例：哆開，癩，癩疽

ただし通常のパソコンでは JIS 第3水準の漢字がインストールされていない

め、哆，癩，癩は現れない。本用語集では「哆(し)開」, 「癩(せつ)」, 「癩(ひょう)疽」とし、ひらがな書きで可とした。

【ひらがな書き】むずかしい漢字、読みにくい漢字はひらがな書きにし、必要に応じて漢字を併記した。

例：かすがい(錠), 骨ろう(蠟), てこ(槌子)

【カタカナ書き】日本語訳が困難な用語については、外国語の読み方でカタカナ書きにした。

【冠名語】人名は原則として、母国での発音に近い読み方で、カタカナ書きにした。ただし他に慣用されている読み方がある場合には、それを併記した。

例：Babinski reflex ババンスキー(バビンスキー)はんしゃ

【送りがな】『送り仮名の付け方』(昭和48年内閣告示)の「本則」に従った。

例：「引抜き」ではなく「引き抜き」

## Ⅳ. 略 語

【欧和の部】欧語の見出し語のうち、その略語が比較的定着していると思われるものについては、略語を併記した。

【略語の部】上述の見出し語以外の、しばしば略語で慣用される語《例：筋肉名》も採用し、非省略形の欧語の後に×をつけた。

例：ADL activities of daily living — 欧和の部の見出し語である

ADM abductor digiti minimi× — 欧和の部の見出し語ではない

## Ⅴ. 用語の配列

### 1. 欧和の部

【2つ以上の単語からなる見出し語】先頭の単語をアルファベット順に並べ、先頭の単語が同じ場合には、2つ目の単語のアルファベット順とした。

例：crus valgum

crus varum

crush fracture

crush injury

【ハイフンでつないだ見出し語】ハイフンのない単語の後に配した。

例：end point  
end vertebra  
end-bearing socket  
end-plate

【[ ] 付きの語】[ ] は、その中の字句を省略できるという意味である。

例：vasodila[ta]tion — vasodilation, vasodilatation いずれも用いられることを示す。

【( ) 付きの語】( ) は、その中の字句を直前の字句の代わりに用いてもよいという意味である。本書では ( ) の前の字句を用いたものと、( ) 内の字句を用いたものの両者を掲載した。ただし間に他の見出し語が入らない場合は再掲しなかった。

例：big (great) toe — big の位置にあり  
great (big) toe — great の位置にあり

【副見出し】2つ以上の単語(修飾語と被修飾語)からなる用語については、被修飾語が見出し語になっている場合、その副見出し語としても採用した。

例：delayed union — union の副見出しにも収載。

《参考：nonunion — 1つの単語なので union の副見出しにしない。》  
funicular pattern — pattern という見出し語はないので、funicular pattern の位置にのみ収載。

## 2. 和欧の部

【[ ] または ( ) 付きの見出し語】どの表現でも引けるようにした。

例：骨[塩]密度 — 「骨塩密度」および「骨密度」として収載。

例：環(輪)状骨端 — 「環(輪)状骨端」および「輪(環)状骨端」として収載。

【2通りの読み方のある語】どちらの読みでも引けるようにした。

例：肘関節 — 「ひじかんせつ」および「ちゅうかんせつ」として収載。

【対応する欧語】英語、他の言語の順とし、両者の間を//《ダブルスラッシュ》で区切った。

例：膝 knee//genu

同一言語で同義の欧語が2つ以上ある場合にはアルファベット順とし、/《スラッシュ》で区切った。

欧和の部で和語を示さず，→で代表的な見出し語に導いたものには△をつけた。

例：距骨 ankle bone△/astragalus/talus

## VI. 記号の意味

- [ ] で囲まれた字句は省略してもよい
- ( ) で囲まれた字句は直前の字句の代わりに用いてもよい
- 《 》の中は説明，注釈，または同義語
- 代表的な見出し語への案内
- ⑥ 複数形
- ⑧ 形容詞
- ⑨ 動詞